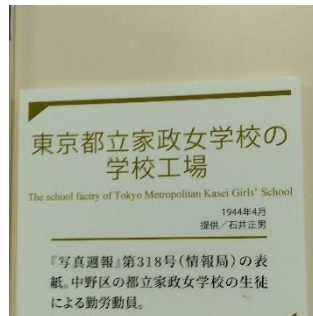


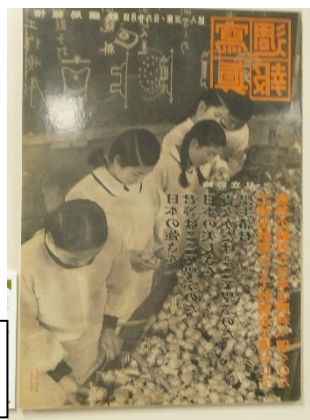
鷺宮高校 社会科FW・活動通信 Vol.30(2025. 5 月)

社会科同好会編②「東京大空襲・戦災資料センター見学①」

2025年5月5日(月)、「東京大空襲・戦災資料センター」で開催された学習会「戦後80年 映画『戦雲(いくさふむ)』上映と学び行動する高校生たちー平和像24周年のつどいー」に、生徒3名、社会科教員3名が参加しました。



「この勤労働員の展示の写真、鷺宮高校だ！（鷺宮の前身は、都立家政女学校）」と気付いた生徒たち。鋭い！



参加した3名が感想を述べました

◆映画『戦雲(いくさふむ)』◆(映画公式サイトより)

本作は 2015 年から 8 年かけ沖縄・南西諸島をめぐる取材を続けてきた映画作家でジャーナリストの三上智恵による渾身の最新レポートである。タイトルは、山里節子さんが「また戦雲(いくさふむ)が湧き出してくるよ、恐ろしくて眠れない」と歌う石垣島の抒情詩とうばら一まの歌詞に由る。

この映画が問うのは、「沖縄の島々なら押し付けてもいいだろう」と要塞化を進める国以上に、「ヤマト」に暮らし、「押し付けても許されるだろう」と国に思わせている私たち自身ではないか。

安田菜津紀〔メディア NPO Dialogue for People 副代表／フォトジャーナリスト〕

話が違う、と繰り返し叫ぶ。約束を破った者たちが黙る。今、繰り返されていること。

杖をついた老婆が、銃を持った若き隊員に話しかける。どちらも平和を望んでいる。

この矛盾は誰が作り出したものなのだろう。

武田砂鉄〔ライター〕

以下、参加した生徒の感想を紹介します。

◆映画見てて大好きな沖縄が！っていう気持ちになったと同時にこんなに軍事施設が広がっていることにもびっくりしたし自分が住んでる町を島に置き換えて考えたら辛くてたまらないなって思った。島の人の楽しい生活や思い出が詰まった島がいつか戦争になんて考えたくもない。やめてほしいなっていう気持ちも持っていたけど自衛隊の方の気持ちになれば国民を守るために厳しい訓練をしてようやく派遣された先で帰れって言われ続けてどっちの気持ちに立ってもお互い辛くてなんか複雑な気持ちになった。・・・ほんとに戦争についてあらためて考えさせられた。どうして戦わないといけないのか言葉で解決できないのか誰も犠牲にならずに平和を保つことはできないのかとか、とにかくもやもやして終わった会だった。軍事基地なんかを作らなくても安心して暮らせる世の中になってほしいって心から思った。

◆生まれた場所によって、恐怖と隣り合わせの生活が強いられるのはよくないと思う。私達は沖縄などの島々との距離が遠いからとても自分事と思いにくいけど、それでも同じ日本に住んでいるものとして私達も声を上げたり、知識を増やしたりして出来ることをしていくべき。

◆島の皆さんが声を上げて政府に反対している姿が印象的だったが、映画の要所要所で映る皆さんの笑っている姿が一番輝かしく見え、それこそが皆さんが守りたい日常、平和そのものなのかなと思った。そのような平和がずっと続けばいいなと思った。